

Tokyo Metropolitan Archaeological Center

たまのよこやま

令和7年度 東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団
普及連携事業 公開セミナー報告

弥生時代が終わるころ
～ムラのカタチとヒト・モノの流れ～ ……2

遺跡だより 世田谷区 西台遺跡 ……4
あの遺跡は現在!? 府中市 武蔵国府関連遺跡 ……5

令和8年度企画展示
「入門！多摩の遺跡たち」
へのご招待 ……6

令和8年度 年間行事予定表 ……8

弥生時代が終わるころ ～ムラのカタチとヒト・モノの流れ～

「東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業 公開セミナー」は当センター・公益財団法人かながわ考古学財団・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団による連携事業で、平成20年度から毎年開催しています。各財団が行った発掘調査や研究の成果を広く皆様にお伝えするとともに、財団の業務や役割についても理解を深めていただくことを目的に行っており、今回で第18回目となります。

今回は埼玉県埋蔵文化財調査事業団の主催で、「弥生時代が終わるころ～ムラのカタチとヒト・モノの流れ～」と題し、令和8年2月7日（土）に埼玉県さいたま市の「埼玉会館」にて開催しました。セミナーは、渡辺 清志氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）によるテーマの趣旨説明、福田 聖氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）・島崎 瑛美調査研究員（当センター）・齊藤 巧真氏（かながわ考古学財団）による三都県の基調報告、小倉 淳一先生（法政大学文学部史学科教授）による記念講演、そしてミニシンポジウムという内容でした。

■開催の趣旨

弥生時代後期から終末期は紀元1～3世紀に当たります。このセミナーでは当時の南関東の様相を、神奈川・東京・埼玉の土器・集落・希少財に注目して見ていきます。



渡辺 清志氏

【土器】土器の「型式」は、地縁・血縁集団によって維持されていると考えられます。弥生時代後期は個性的な顔つきの土器が割拠し複雑な状況を呈することが知られており、出自の違う集団が共生する地域社会が想定されています。

【集落】有名な佐賀県吉野ヶ里遺跡には幾重にもムラを取り巻く環濠があり、「争乱の時代」を意識させます。しかし関東地方の環濠はすぐに埋まっていたり、そもそも環濠が作られない場合もあるなど、防御機能は形骸化しています。こうした

違いの背景や関係性についても考えていきます。

【希少財】弥生時代後期には剣や釧（腕輪）等の鉄製品や、銅鏃や小銅鐸等の銅製品、勾玉やガラス玉等の玉類といった希少財の出土が急増します。これらはいくつかのルートで関東地方にやってきたと考えられています。異なる出自を意識しつつも価値観は共有している複雑な社会の様相を見ていきます。

■基調報告1 埼玉県の様相

埼玉県内の土器は後期前葉には中部高地系の岩鼻式で占められていましたが、後期中葉までには東海系の下戸塚式がその範囲を席卷します。その後、岩鼻式は吉ヶ谷式へ、下戸塚式は弥生町式へと文様要素を引き継いで移行しますが、県北西部では吉ヶ谷式、大宮台地や低地部では下戸塚式と分布域は分かれています。この2つの土器分布圏は住居形態の違いも伴っており、下戸塚式・弥生町式の住居は平面形が隅丸方形で柱は四本、炉は1つという駿河・相模・武蔵と共通した住居形態ですが、吉ヶ谷式の住居は長方形で柱は四本以上、炉は複数設けられるのが一般的です。後期中葉以降は多くの環濠集落が作られますが、規模が小さく、跨いで渡れてしまうものもあるほどで、環濠の防御的性格は形骸化しています。希少財に関しては埼玉県域では小銅鐸は出土しませんが、海外からの舶載品であるガラス玉などが土器分布圏に関わらず出土するため、土器分布圏を超えて物流を調整する人物の存在が窺えます。



福田 聖氏

■基調報告2 東京都の様相

都内では、特に現在の北区・荒川下流域右岸の武蔵野台地東縁部に複数の大規模な集落が密集しています。今回はそのうち7遺跡を取り上げます。各集落から出土する土器には東京湾西岸や東海地域



島崎 瑛美
調査研究員

の影響が見られる在来系土器や、東海地域からの外来系土器が多いため、これらの集落に暮らした人々の源流は東海地域にあり、在地の人々と交わり北上していく中で集落を形成したと考えられます。大規模集落に発展したのは、荒川に近く交通の要衝であったためでしょう。東海地域や北関東地域など様々な地域の土器や、金属製品、ガラス小玉が多く出土する集落には、モノの流通を掌握した有力者がいたのかもしれませんが、土器の様相や住居の廃絶時に赤砂を撒く祭祀様式などが共通しており、在地の伝統を継承しつつ外来の文化も受容する様相が想定されます。

■基調報告3 神奈川県の様相

神奈川県内の土器は、中期末にはほぼ全域で宮ノ台式が使われていましたが、後期になると相模湾岸では主に東海系の土器が、東京湾岸では沿岸部で宮ノ台式の伝統を継ぐ久ヶ原式系土器、内陸部で中部高地の影響を受けて成立した朝光寺原式が出土するようになり、地域差が発現します。住居は環濠の内外につくられ、環濠の防御機能は形骸化しています。金属製品は中期後半には鉄製の農具が中心でしたが、後期には新しく銅製品も出土するようになり、器種も多様化します。海外からの舶載品とされるガラス小玉ももたらされており、様々な流通経路が想定されます。異なる土器分布圏からも同一器種の希少財が出土することから、土器分布圏を超えて一定の価値観が共有されていたと推察されます。

■記念講演

ここでは中期から後期にかけてどのように社会が変化したかを概観し、各地域を理解する糧にしたいと思います。南関東に本格的な弥生集落が出現する中期中葉は集落が少数点在する状況でしたが、中期後葉になると数が増え、環濠を持つ集落も顕在化します。しかし関東地方の環濠は小規模で、防御施設としては形骸化しているとも考えられます。環濠を掘る行為は、人々の絆を深め、居住地の体裁を整え、縄張りを内外に示すための象徴的な活動だったのではないのでしょうか。なお、後期の環濠集落は中期よりも小型化し、環濠もさらに省力化されますが、一方で環濠を持たない大集

落もあり、人々が集住するようになった一面もあったようです。中期中葉には墓制にも変化があり、それまでの再葬墓とは異なる方形周溝墓が一般化します。墓の様相からは、集落の構成員はある程度平等に扱われていたと想定されます。その後、後期には希少財の副葬例が増加するため、リーダーの存在が顕在化してきたことや、集団間に鉄や青銅製品などの外来物資を仲立ちとした共通の観念が育っていること、利害を調整し鉄の道具などを末端まで行き渡らせることに腐心する複数のリーダーがいたことが想起されます。今後は南関東各地における弥生文化の実像に迫る必要があり、各地で進んでいる遺跡の調査成果に期待しています。

■ミニシンポジウム

弥生時代が終わるころの三都県の様相について、以下のことが確認されました。

【土器】三都県とも東海地方の影響を受け、土器型式が大きく変化するが、小地域の独自性を維持した異なる土器分布圏が併存する状況が認められる。竪穴住居跡の構造も同じ傾向であり、アイデンティティの異なる集団が共生する社会像が想定される。

【集落】後期には環濠集落が小規模になるが、環濠のない大集落も一般化する。これは、中期のフロンティア的開発と異なり、河川流域を隅々まで耕作するための選択とも考えられる。一方、異なる土器分布圏が併存することから、集団意識を高めるために環濠を掘った可能性もある。防御機能は形骸化しているため、南関東では武力崇拜は希薄だったようだ。

【希少財】三都県とも後期には希少財の出土例が増える。その流通経路は多様であり、細かく分かれる土器分布圏を貫く広域のネットワークが存在していた。希少財を副葬される人物はそうした流通に携わる地域のリーダーであっただろう。関東でも全国同様、リーダーが生まれる動きが始まっていた。

本セミナーは曇りの降る中、満員御礼となりました。弥生時代が終わるころ、異なる文化を持つ隣人と共生した南関東の社会像が、来場者の胸に刻まれたことと思います。
(宮本 由子)



小倉 淳一先生



齊藤 巧真氏

世田谷区 西台遺跡

所在地 : 世田谷区成城九丁目
 調査期間 : 2025年8月～2026年12月(予定)
 調査面積 : 約1,700㎡

現在、世田谷区成城九丁目では、西台遺跡(世田谷区遺跡 No.158)の発掘調査を行っています。西台遺跡は仙川右岸に張り出した高台に立地しており、過去3度の調査によって縄文時代の集落が存在したことが明らかとなっています。

今回の発掘調査では、これまでに竪穴住居跡11軒をはじめ、土坑や柱穴など多数の遺構が検出されています。出土遺物も多く、勝坂式土器や加曽利E式土器、打製石斧、磨石、石皿、石鏃など様々な石器が見つかりました。

発見された竪穴住居跡は、いずれも縄文時代中期前葉から後葉にかけて造られたものですが、造られた時期によって建物の構造が異なるのが面白い点です。距離にして5m、隣り合うように検出された加曽利E1式期(約4,900年前)のSI015と、勝坂1式期(約5,300年前)のSI016の2つの竪穴住居跡を例に挙げ、その違いを見てみましょう。

SI015の平面形は隅丸方形で、屋根を支えた柱の痕跡は建物の四隅で見つかりました(写真1)。壁の内側には壁面の崩落を防ぐために木材を据えた溝状の掘り込みが廻っていました。建物の南壁際では、出入りに使用する梯子(階段)が据えられた窪みが見

つかり、周囲の床はガチガチに踏み固められました。出入口の奥には深鉢の上半部を埋めた炉が備え付けられ、炉の脇には平べったい石が置かれていました(写真2)。調理のための作業台として使用されたのでしょうか。

一方、SI016の平面形は楕円形で、柱は六角形状に配置されていました(写真3)。壁際の溝状の掘り込みは認められませんでした。炉は中央からやや西寄りに設けられており、深鉢の下半部を埋め、その隣に楕円形の石を「コ」字状に組むという特徴的な形態をしていました(写真4)。周囲の土が熱により変質していたため、ここで火が焚かれたのは間違いなさそうですが、土器が埋められていた部分と石で囲われた部分で、何らかの使い分けがされていた可能性もあります。調査で確認できたこれらの「違い」は、SI016が造られてからSI015が造られるまでのおよそ400年間に、住居の造り方の流行が変わっていったことを示しているのかもしれませんが。

今後、発掘調査は縄文時代集落の中央部へと足を踏み入れていきます。時期による違いだけでなく、集落内での位置関係や建物の性格による構造の違いが見出せられれば一層面白いですね。(岩井 聖吾)



写真1 加曽利E1式期のSI015(北西から)



写真2 SI015の炉(東から)



写真3 勝坂1式期のSI016(北から)



写真4 SI016の炉(南西から)

いま あの遺跡は現在！？ Vol.26

— 東京消防庁府中消防署 府中市武蔵国府関連遺跡 —

このコーナーでは発掘調査時と現在の写真を比べながら、調査後の遺跡がどのように変わったのかをご紹介します。

武蔵国府関連遺跡は府中市域の約1/5を占める広大な遺跡です。その範囲には古代武蔵国の国府が広がっていました。同遺跡ではこれまで府中市教育委員会を中心に延べ2000回を超える発掘調査が行われてきました。今回ご紹介するのは当センターが平成19年度に実施した府中消防署の建替工事に伴う調査です。調査地点は京王線府中駅から徒歩7分ほどの府中市寿町1丁目に所在します。これは国府の中心の「国衙」があったとされる大國魂神社から北北西に600mほど離れた位置にあたります。調査では平安時代を中心とする竪穴建物跡24棟、掘立柱建物跡10棟をはじめ、多数の遺構が見つかりました。

特に注目されるのは、八花鏡の発見です。銅製の小さな鏡ですが完存しており、背面には左右に小さな鳥、上下にはそれぞれ花枝の文様が鋳出されています。唐鏡を手本に日本で鋳造されたと考えられま

す。鏡は楕円形の掘り込みから出土しており、地鎮などの儀礼に伴って埋納されたものと想定されています。同型の鏡の出土例は全国的にも稀ですが、長野県岡谷市の榎垣外遺跡での出土例も、官衙的な遺構群に伴っており、両者の共通性が窺えます。

武蔵国府関連遺跡のこれまでの調査成果は「府中市立ふるさと府中歴史館」や「府中市郷土の森博物館」などでみることができます。また、JR府中本町駅の前では、現地で見つかった国司の館跡のジオラマ展示やVRスコープによる再現映像も楽しめます。春になり温かくなってきた今日この頃、古代の歴史散策を楽しんでみてはどうでしょうか。

(武内 啓)

※当センターの令和8年度企画展示「入門！多摩の遺跡たち」でも武蔵国府関連遺跡の出土遺物を展示しています。

◆調査成果が掲載された報告書

2008『府中市武蔵国府関連遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告書 第228集 東京都埋蔵文化財センター
※写真2・3は上記報告書より引用



写真1



写真2

写真1 現在の府中消防署。撮影した早朝時も消防隊員たちによる器材のチェック作業の音が響いていました。

写真2 発掘調査で見つかった「八花鏡」。径6.3～6.5cm、厚さ2.0mm、重量32gの小さな銅鏡ですが、貴重な発見例となりました。

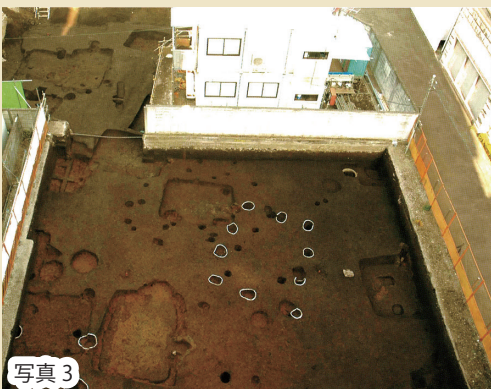


写真3



写真4

写真3 府中消防署建て替えに伴う調査で見つかった遺構群。白い円は掘立柱建物の柱穴跡です。

写真4 JR府中本町駅前にあるジオラマ。この場所で見つかった国司館で、国司が都から赴任した時の儀式の様子を再現しています。

入門！多摩の遺跡たちへのご招待

A Small Journey through
the Archaeological Sites
of Tama Area

東京都立埋蔵文化財調査センターの令和8年度企画展示は「入門！多摩の遺跡たち」と題して、東京の西半分、多摩地域にある興味深い遺跡たちをご紹介します。当センターのある多摩ニュータウンもその中に含まれ、研究史上も重要な遺跡が数多くある多摩地域ですが、まとまった形で展示するのは意外にもはじめて。今回はそんな新展示について簡単にご紹介します。

そもそも「多摩」ってなに？

「多摩」という言葉が具体的にどこを指しているのか、みなさまはご存知でしょうか。「多摩動物公園」は有名ですし、東京の最も西にあるのは「奥多摩町」、当館が位置するのは「多摩市」、神奈川県川崎市には「多摩区」と、「多摩」の名前を冠する場所は数多くあるわけですが、では「多摩地域」とはどこなのでしょう？結論から言えば、「多摩地域」とは、島嶼部を除いた東京都の西側、23区以外の地域を指す言葉です。一時は神奈川県に属していたりとさまざまな沿革を経ましたが、1893年（明治26年）の東京府編入以降東京の一部となり、現在では400万人以上の方が居住しています。都道府県別の人口を見ると全国10位の静岡県が約360万人ですから、多くの道府県よりも大きな人口をもち、経済規模や存在感を誇る多摩地域ですが、同時に30,000年以上にわたる歴史をもち、数々

の興味深い遺跡を秘めた場所でもあるのです。

多摩の多は多彩の多？

多摩地域と一口にいても、西側には山地、多摩川以南には丘陵、以北には台地、またそれぞれの内部には多摩川に代表される大小の河川によって堆積した沖積低地というように多種多様な環境があり、長い歴史の中で、多くの人々がさまざまな営みを連綿と続けてきました。調べれば調べるほど、このような複雑で色とりどりの歴史を単線的な「多摩の歴史」というラベルでまとめてしまうのはかえってもったいないことのように思われてきます。そこで、今回の展示では、そんな多様な環境、長い時間の中で形成されてきた多彩な遺跡たちを、あえて時代や地域もバラバラに並べ、それぞれの個性豊かなあり方を感じていただくことにしました。角を曲がると、思ってもみないような歴史と次々に出会える、そんな多摩の遺跡巡りの小さな旅を楽しんでいただければ幸いです。

ご紹介するのはこんな遺跡たち

展示の主役はそれぞれの多摩地域の遺跡、そしてそこから出土した出土品たちです。次はそんな主役たちをいくつかご紹介することにしましょう。

むさしだい 武蔵台遺跡（府中市）

武蔵台遺跡は東京都最古級の旧石器が出土した、研究史上も著名な遺跡です。立川ロームX層出土の石器類は約35,000-36,000年前のものと推定されています。アフリカで発生したホモ・サピエンスはその後世界



展示で紹介する多摩の遺跡の位置

中に進出し、約 38,000 年前に日本列島に到達したとされます。武蔵台遺跡から出土した旧石器の年代はこの年代と近く、この地域に到達した人類集団がほとんど残したものと考えられます。これほど古い石器群は全国的に見てもまだ少なく、その内容の豊富さからも、日本列島の後期旧石器時代の始まりを考える上で重要な資料と位置づけられてきました。小さな石器たちの向こうに見える「東京」ひいては「日本」のはじまりという大きな物語に思いを馳せてみて下さい。



石器接合資料
(武蔵台遺跡出土)

なめざか 滑坂遺跡 (八王子市)

横浜線の八王子みなみ野駅の近くにあった滑坂遺跡は、縄文時代中期の環状集落です。縄文時代中期は大規模な遺跡が多く見つかる、関東縄文の最盛期とも言われる時代。当センターの展示室にも多摩ニュータウンから出土した中期の土器は多く並んでいますが、今回は同じ中期でも常設展示に並んでいるものとは異なる形態の土器たちを選びました。これぞ「縄文」というダイナミックな造形の土器たちは縄文好きのみなさまに必ず喜んでいただけたらと思います。



阿玉台式深鉢
(滑坂遺跡出土)

しけんざいけ 四軒在家遺跡 (国立市)

多摩川中流域に存在する 7 世紀の古墳群から、直刀や勾玉、首飾り等を展示します。当時貴重だったガラスや金属、水晶等を使って作られた装飾品類は古墳に眠る有力者の権威を物語ります。7 世紀は多摩川中・上流域で群集墳^{*}が盛んに造営される時期で、本遺跡もその一つです。畿内から与えられ



水晶製切子玉
(四軒在家遺跡出土)

たと考えられる銀象嵌の直刀は、大化の改新という大きな政治的・社会的変革を控えた、文献資料の少ないこの時期の多摩の地の様子を伺わせる貴重な資料です。普段の展示では見られない華やかな装身具をぜひお楽しみください。

※小規模の古墳がまとまって作られる古墳群

したじゅくうちやま 下宿内山遺跡 (清瀬市)

下宿内山遺跡は江戸時代の農村の遺跡で、昭和 50 年代に発掘が行われました。華やかな大名屋敷や大都会江戸ではなく、村落を大規模に発掘する例は、多摩ニュータウン遺跡群を除くと現在に至るまでも希少です。まして江戸時代の考古学的研究が現在ほど盛んでなかった黎明期に行われたという点で、極めて革新的な調査でした。掘り出された遺物からは、当時の景観や人々の生活が浮かび上がります。



陶磁器類
(下宿内山遺跡出土)

「入門」という言葉にこめた思い

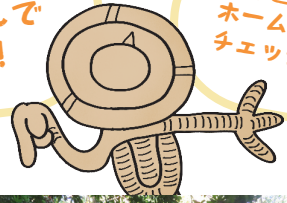
展示室では他にもさまざまな遺跡たちがみなさんのご来館を待っています。なかなか一同に会することのない出土品たちを展示しましたので、ぜひこの機会に足をお運び下さい。そして、本展示で興味を持たれた方は、ぜひ多摩地域の各市町村の遺跡を巡り、博物館を訪ねてみて下さい。今回の展示は、貴重な文化財を快くお貸しいただいた各自治体や館のご協力があって開催ができませんでした。タイトルの「入門」という言葉には、本企画をきっかけにして、多摩地域の歴史や埋蔵文化財に関心をもたれる方が増えてほしいという思いを込めています。多摩地域には、興味深い歴史を秘めた遺跡や、素晴らしい遺物が展示される博物館が、今回ご紹介する以外にもまだまだ沢山あります。お越しいただいた皆様の本展示を「入門」として、それぞれの多摩の遺跡巡りの旅に踏み出していただければ、主催者としてこれ以上の喜びはありません。

(舟木 太郎)

令和8年度 年間行事予定表

令和8年度も
とまいぶんで
楽しもう！

お申込み方法は
ホームページを
チェックしてね！



大好評！親子 縄文土器作り

NEW! 火おこし体験会

NEW! とまいぶん解説ツアー

日程(予定)	行事名	対象	日程(予定)	行事名	対象			
4月 11日 (土)	「縄文の村」自然観察会(1)	大人向け	3日 (土)	縄文土器作り	大人向け			
	企画展示解説会(1)	どなたでも		4日 (日)		(11月7日の野焼きと合わせて全3日間の参加が必須です)		
5月 9日 (土)	縄文の布作り(1)	大人向け	8日 (木)	トンボ玉作り(1)	大人向け			
	勾玉・耳飾り作り(1)	大人向け		トンボ玉作り(2)	大人向け			
6月 27日 (土)	古代の糸作り(1)	大人向け	10月	学芸員ギャラリートーク「大昔の多摩を語る」(2)	どなたでも			
11日 (土)	とまいぶん解説ツアー(1)	どなたでも		企画展示関連講演会(2)	どなたでも			
	映像上映会(1)	どなたでも		24日 (土)	考古学講座	大人向け		
23日 (木)	親子 勾玉作り(1)	親子等		30日 (金)	特別展示解説会(1)	どなたでも		
	親子 勾玉作り(2)	親子等	11月	特別展示解説会(2)	どなたでも			
7月 25日 (土)	親子 縄文土器作り (8月15日の野焼きと合わせて全2日間の参加が必須です)	親子等		3日 (火・祝)	企画展示解説会(2)	どなたでも		
	29日 (水)	親子で縄文の森あそび		低年齢向け	とまいぶん解説ツアー(3)	どなたでも		
30日 (木)	おひさま勾玉作り(1)	低年齢向け		7日 (土)	縄文土器の野焼き(2)	どなたでも		
	おひさま勾玉作り(2)	低年齢向け	学芸員ギャラリートーク「大昔の多摩を語る」(3)		どなたでも			
8月	1日 (土)	親子 火おこし道具作り	親子等		14日 (土)	火おこし体験会	どなたでも	
		親子 縄文の布作り	親子等			企画展示関連講演会(3)	どなたでも	
	15日 (土)	縄文土器の野焼き(1)	どなたでも	28日 (土)	調査研究員講演会(1)	どなたでも		
	20日 (木)	おひさま考古学教室(1)	低年齢向け		12月	5日 (土)	縄文たきまつり	どなたでも
		おひさま考古学教室(2)	低年齢向け			12日 (土)	企画展示解説会(3)	どなたでも
	21日 (金)	おひさま考古学教室(3)	低年齢向け			企画展示関連講演会(4)	どなたでも	
		おひさま考古学教室(4)	低年齢向け	19日 (土)		火おこし体験会	どなたでも	
	23日 (日)	親子 勾玉作り(3)	親子等		調査研究員講演会(2)	どなたでも		
親子 勾玉作り(4)		親子等	1月 23日 (土)	企画展示解説会(4)	どなたでも			
26日 (水)	親子で縄文土器と友達になろう!	親子等		企画展示関連講演会(5)	どなたでも			
	とまいぶん解説ツアー(2)	どなたでも	2月 13日 (土)	企画展示解説会(5)	どなたでも			
9月	9日 (水)	古代の糸作り(2)		大人向け	調査研究員講演会(3)	どなたでも		
	12日 (土)	学芸員ギャラリートーク「大昔の多摩を語る」(1)	どなたでも	3月 20日 (土)	企画展示解説会(6)	どなたでも		
		企画展示関連講演会(1)	どなたでも		遺跡発掘調査発表会	どなたでも		
	30日 (水)	縄文の布作り(2)	大人向け	※日程は変更になる場合があります。 開催の約1か月前までにホームページに公開される 詳細ページをご確認の上、お申込みください。				
勾玉・耳飾り作り(2)		大人向け						

※今号の表紙：令和8年度企画展示出陳遺物

所蔵・収蔵：東京都教育委員会、八王子市教育委員会、府中市教育委員会、町田市教育委員会、国立市教育委員会、狛江市教育委員会、清瀬市教育委員会、府中市郷土の森博物館、くいたち郷土文化館



たまのよこやま 144
東京都埋蔵文化財センター

2026年3月20日発行

〒206-0033 多摩市落合 1-14-2 TEL 042-373-5296 <https://www.tomaibun.jp/>

